

# 「国際協力」への取り組み ～立命館アジア太平洋大学～



外務省主催 「大学によるODAの戦略的活用」

**2013**年7月**25**日

於：**JICA**九州国際センター

# APUにおける「国際協力」の位置づけ



- **APU基本理念**

「自由・平和・ヒューマニズム」

「国際相互理解」

「アジア太平洋の未来創造」

→国際貢献・国際協力事業への積極的参画は、**2000年**の開学以来本学のミッションそのもの

- **APU2020ビジョン**

グローバル人材の育成を通じた国際貢献

# APUの「国際協力」への関わり



- 2000年度：開学
- 2003年度：大学院アジア太平洋研究科  
国際協力政策専攻を開設  
：日本政策投資銀行国際協力部と  
国際協力活動に関する協定を締結
- 2004年度：JBIC(国際協力銀行)と  
「海外経済協力分野に関する協力協定書」を締結
- 2010年度：JICAと連携協定を締結

# APUにおける「国際協力」の実施状況



## ○JICA草の根技術協力事業

### ○人材育成支援無償 (JDS)

:JDS学生受入

2000年度～ 計225名(2003年度～大学院)

### ○JICA研修員受入事業

:2006年度～短期研修員受入開始 ※

:2009年度～長期研修員受入開始 計16名

:2011年度～PEACEプロジェクト受入開始 計2名

### ● 地方開発分野「コミュニティ・キャパシティ及び地方開発」 ※

2012年度まで計41回実施、53か国から536名を受入。

2013年度 9回の短期研修を予定。

# JICA草の根技術協力事業(地域提案型)(1)



## ○プロジェクトの概要

- **2012年度～2014年度(3年間)** タイ王国  
「スリン県におけるコミュニティ・キャパシティ開発による  
地方開発プロジェクト」
- **2010年度**タイ帰国研修員のアクションプラン(※)をベースに実施
- **APU**が本格的に海外において展開する  
国際協力事業の初めての事例。
- 契約金額 **3,000万円**

※JICA短期研修「コミュニティ・キャパシティ及び地方開発」

# JICA草の根技術協力事業（地域提案型）（2）



## ○実施体制

- アジア太平洋研究科 三好皓一教授、  
アジア太平洋研究科 大学院生・修了生、  
外部の専門家によるプロジェクトチームを構成。
- カウンターパート：  
スリン県コミュニティ開発事務所（内務省コミュニティ開発局）
- 協力：別府市**ONSEN**ツーリズム部

# JICA草の根技術協力事業(地域提案型)(3)



## ○実施目的

- ①地域資源を活用した分散・体験型見本市(オンパク等)の開催
- ②見本市で選定された产品及びサービスに対する  
技術支援による市場性の向上
- ③产品及びサービスのマーケット・プレースの構築
- ④事業経験の共有化体制の整備による、  
タイ王国の地方開発と人材育成

⇒上記を通じた地域コミュニティの生産者やサービス提供者  
(グループ)の所得水準の向上と自信の確立を目的とする。

# JICA草の根技術協力事業（地域提案型）の成果



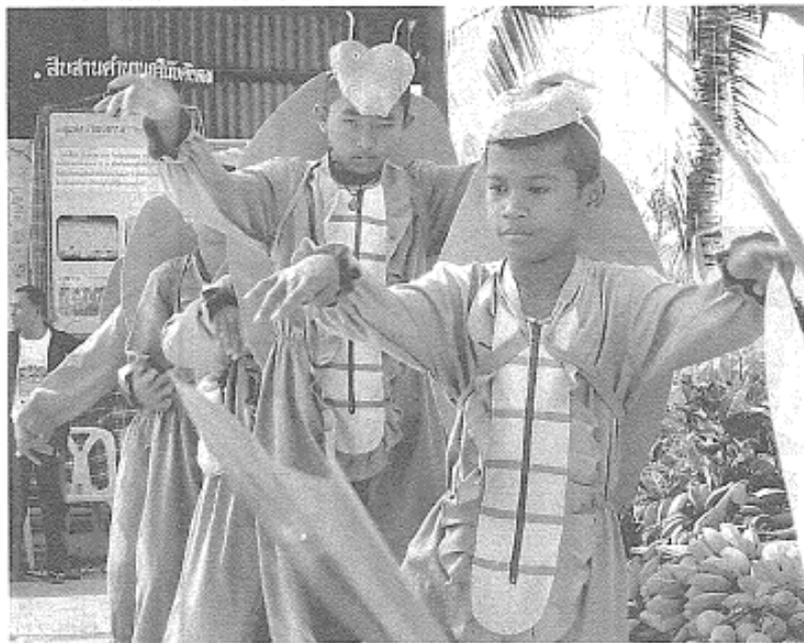
## ○タイ側

- 2013年1月に1ヵ月間、スリン県で分散・体験型見本市（オンパク等）「第1回Khong Dee Muang Surin Festival（スリン良いもの見本市）」を開催、県内全17郡にて97プログラム実施
  - オンパク等の実施によるバンコク、他都市・他県への情報発信
  - 現地住民の能力開発
  - 地元資源の魅力発見、新たな販路開拓
- ⇒他県への拡大希望を含むタイ全土への広がり

## ○地方自治体（別府市等）側

- 別府発の国際貢献、国際協力への市民参画意識の高まり
- 別府市のオンパクの取り組みを国内外に周知

スリン県ボーゴン村で子どもがユーモラスに演じる「カマキリの踊り」



# カマキリ踊りゾウの世話… タイでもオンパク

APU支援

別府市から「輸出」されたタイ版オンパクが東部のスリン県で始まった。2月4日まで97イベントを計画。一村一品に続き、東南アジアでオンパクが根付くのか注目される。

立命館アジア太平洋大(APU)大学院アジア太平洋研究科の三好皓一教授(国際協力政策)が協力。タイ政府の最先機関、県内17郡職員や学識者を巻き込んで昨年5月から計6回話し合い、魅力的な体験型イベントや物産を盛り起こした。

クワとカイクを育てる村でハッタの神に祈り、子が演じるカマキリの踊りを堪能▽ゾウ

スリン県ノンキウ村でカイクのさなぎを試食するタイ版オンパク参加者



の水浴びの手伝いやカヤックでの川下り▽有機野菜・米による伝統料理作り——とタイの農村ならではの中身。APUは06年度以降アジアやアフリカの行政職員ら約550人の短期研修を受け入れ、一村一品運動の拠点といえる日田市大山町、「長崎さるく」の長崎市、オンパクの別府市など視察。帰国後の政策立案に生かされているが、「三好教授は「オンパクのモデルケースを

作りたかった」。スリン県が派遣した担当者が興味を示し、ハットウ・オンパク事務局で約2年間インターンシップしたタイ語が流ちょうなAPU大学院生、石丸久乃さんが協力できる好都合もあった。三好教授は「タイでは一村一品運動を取り込んだ商品が開発されている。そうした魅力を掘り起こし、PRするためタイ全土に広げたい」と夢を語る。

【祝部幹雄】

第1回 Khong Dee Muang Surin Festival (スリン良いもの見本市)



開会式の様子(2013年1月11日):APU三好教授、現地カウンターパート



開催期間中の様子

# JICA草の根技術協力事業(地域提案型)の課題



## ○事業への参画による大学への裨益

- 教育研究理念、ミッションへの貢献
- 本学の優位性(教員、学生の多様性)の国内外での活用
- 専門家としての大学院生の人材育成

## ○本学における課題

- 国際協力事業を担う人的体制
- **JICA**や他の国際機関と本学との人的交流強化
- 国際協力事業全般に対する学内の認知度向上

## ○カウンターパートにおける課題

- 予算執行、手続き等事務処理(資料等)の煩雑さ